No62　平成 27 年夏号

道　南

北海道道南会会報
No62　平成 27 年夏号

発　行　2015 年 8 月 1 日
発行所　北海道道南会事務局
連絡所　茨城県取手市西
1-6-C-907
TEL&FAX　0297-74-7576

八雲町の歴史に感銘

北海道道南会会長　薬袋　泰

梅雨も明け、また今年も厳しい暑い夏を迎えていますが、皆さまにはこの暑さに負けず、益々ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

創立55周年記念事業の一つ「ふるさと訪問旅行」が5月24日（日）～26日（火）二泊三日の行程で行われ、函館市片桐副市長、小山内観光部長、函館東京事務所に勤務されていた、酒井氏、関谷氏、廣部氏、西谷氏、そして中宮七飯町町長との交流を深めました。

今回の「ふるさと訪問旅行」は函館の皆さんとの交流と、北海道仙境の湯・上の湯温泉・銀婚湯で温泉を満喫しようとの旅でしたが、思い描いた以上に八雲町の歴史に触れ、満足のゆく旅でした。銀婚湯の由来は、大正14年5月10日、七飯峠下の川口福太郎が志あって中洲を開掘し、熱湯の大量湧出に成功。温泉建設に夢をはせ、時あたかも大正天皇銀婚の佳日に当たったため、福太郎の妻トネの発案で、自分たち夫婦の銀婚式を重ね合わせ「銀婚湯」と命名したとのことです。八雲町の観光では、町の歴史を学びましたが、初めて知ることばかりで歴史の深さに感銘を受けました。八雲町の歴史は、尾張徳川の入植から始まる。尾張徳川入植は、旧尾張藩主徳川慶勝公が開拓と併せて旧臣授産のため、八雲（遊楽部）の土地の下付を願い出て家臣団を移住させたことからとされている。このような民間資本による集団移住は、北海道開拓移住の先駆けとなり、その後の毛利家、前田家、鍋島家などの士族移住の手本になったという。ちなみに、慶勝公は、北海道開拓地選定のため3名の家臣を派遣し、事前に北海道各地を回って調査させています。この選定が八雲の天候の良い9月だからこそ遊楽部が選ばれ、もし調査が天候の悪い5～6月だったら、遊楽部は選ばれていないかもしれません。

「八雲」の地名は慶勝公がスサノオノミコトが詠んだ古歌の「八雲立つ
出雲八重垣　妻籠みに
八重垣作る　その八重垣を」から名付けられたという。

八雲は、木彫り熊のふるさと「北海道木彫り熊発祥の地」です。八雲の木彫り熊は、徳川慶勝公が諸外国を旅行している時にスイスで木彫り熊を見つけ、農民の副業にと考え、1923年に彼が持ち帰った木彫り熊を参考に「とにかく作ってみろ、できたものは私が買い上げるから」と言って八雲の人々に制作をすすめ、作られたのが始まりです。八雲木彫り熊は、大きく分けて2種類あり、1つは細かい毛立てを行う「毛彫り」で、もう1つはカットした面で表現する「面彫り」です。八雲の木彫り熊のブランド名「熊彫り」は、熊狩りの殿様、第19代当主徳川義親公の「熊狩り」にちなんでいます。

また、八雲にはデンマークに学んだ北海道酪農の先進地、トラピストバター飴の起源、不二家のペコちゃんのモデル伝説、ザ・タイガース「花の首飾り」原作詞の地等々歴史の深さを感じさせる事柄や史蹟が沢山ありました。

さて、待望の北海道新幹線が、愈々来年3月に開業します。函館市では新幹線開業とともに函館の多様な魅力のPRのため各種プロモーションを企画しておりますが、特に首都圏でのPRとして、来年1月8日から17日まで東京ドームで開催される『ふるさと祭り2016』に市単独で大型ブースを出展すべく準備を進めております。道南会では函館の応援団として多くの会員が参加して協力したいと考えております。ご協力を宜しくお願い申し上げます。

道南会夏季懇親会は9月5日（土）ホテル・ラングウッドで開催されますが、多くの会員の皆さまのご出席をお願い申し上げます。

噴火湾パノラマパークからの八雲市街地

函館市便り

函館市長　工藤　壽樹

【はじめに】

北海道道南会の皆様におかれましては、日頃から、函館市勢伸展に特段のご支援・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会におかれましては、本年、創立55周年という節目の年を迎えられますことに、心からお祝いを申し上げますとともに、昭和35年の創立以来、半世紀を超える長きにわたり、「ふるさと道南」を心の絆として会員相互の交流と親睦を深め、固い結束のもと、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられ、今日のご隆盛を築かれておりますことは、薬袋会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様の一方ならぬご努力の賜と存じ、心から敬意を表します。

私は、本年4月に行われた市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から温かいご支援をいただき、引き続き市政を担わせていただくこととなりました。

北海道新幹線の開業を目前に控え、長い停滞から脱し本格的な発展をめざすこの転換期において、再び函館の市政を託されたその責任の重さに身の引き締まる思いであります。

これまでの4年間、「活気に満ちて、だれもが幸せに暮らせるまち・函館」の実現をめざし、「改革と挑戦」をスローガンに、「経済の再生」と「財政の再建」を最優先課題として位置付け、まちづくりを進めてきたことから、市政の各般にわたり蒔いてきたまちづくりの種は、「函館再生」の芽として膨らみ、花も咲き始め、少しずつ私のめざすまちの姿が見えるようになってまいりました。

さて、今日、世界経済は、一部の新興国等に弱さがみられるものの、アメリカを中心に全体として緩やかに回復しており、我が国においても、雇用・所得環境が着実に改善するなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。

本市においても、個人消費などに弱めの動きがある一方、東日本大震災の影響で落ち込んだ観光入込客数は回復傾向にあり、雇用も厳しさが和らぎつつあるなど、地域経済は緩やかに持ち直してきております。

【人口減少対策へ向けて】

一方で、本市は、国や北海道より早くから人口減少が進んできており、長年にわたり様々な対策を講じてまいりましたが、全国的に少子高齢化の影響がさらに拡大するなかで、今後も人口の減少が続くと考えられることから、私の「改革と挑戦」のセカンドステージでは、未だ道半ばにある「経済の再生」に加え、「人口減少対策」を大きな課題に位置付けたところであります。

函館駅前電停

昨年5月に日本創成会議が発表した人口推計により、我が国が直面する人口減少の深刻さが改めて浮き彫りとなるなか、国においては、人口減少は少子化の進行や東京一極集中がもたらしたものであり、国と地方が総力を挙げて取り組むべき国家的課題であるとして、昨年12月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、長期ビジョンと総合戦略を決定したところであり、これを受け、各地方公共団体では、今年度内に「地方人口ビジョン」および「地方版総合戦略」を策定し、それぞれの地域が特色を持った取り組みを進めることとなったところであります。

このため、国と地方の役割分担のもと、国に対しては、国が行うべき政策の着実な取り組みを求めるとともに、各種施策に取り組み、創出される活気とにぎわいをまちの新たな魅力に加え、交流人口の拡大を図ってまいります。

また、観光のみならず企業誘致や物産の販路拡大など、様々な経済強化策に取り組むとともに、若者の雇用を創出するほか、安心して子どもを産み、育てることができるよう、子育て支援や女性の就労支援などにおいても、新たな施策を展開し、戦略的・総合的な人口減少対策に繋げてまいります。

函館のまちは、北洋漁業の縮小や造船不況など、社会経済情勢の変化による影響を大きく受け、これまで長らく衰退の道をたどってまいりました。

一度衰退に向かったまちを立て直すことは容易ではあり

ませんが、私たちは、函館の経済再生への挑戦をこれからも続けなければなりません。

【函館市として目指すもの】

幸いにして、函館のまちは多くの資源に恵まれ、国際観光都市として、また、学術研究拠点都市としてさらに発展する可能性があります。交通の要衝や観光都市としての都市ブランドのほか、来年3月の北海道新幹線の開業効果を最大限生かしながら、急激な人口の減少を緩やかなものにするとともに、国内外の人々が行き交い、にぎわう、活気にあふれるまちに再生してまいりたいと考えており、次に述べさせて頂く各種施策に取り組んでまいります。

来年3月の北海道新幹線の開業は、交通拠点としての函館の優位性をさらに高め、新たな人の流れをまちに呼び込むことが期待されることから、この機を逃さず、陸・海・空の交通網のさらなる充実を図るとともに、国内外でのプロモーション活動を強化し、観光客をはじめとした交流人口を増加させ、様々な産業へ経済効果を波及させてまいります。

異国情緒あふれる美しい町並みを有する函館は、民間の調査会社による地域ブランド調査で、昨年、魅力的な市区町村の1位にランキングされるなど、都市としてのブランド力は多くの人が認めるところであります。

昨年度の観光入込客数は484万人であり、特に、下期において167万8千人と過去2番目を記録し、平成35年度を目標年次とする新たな観光基本計画において目標としている観光入込客数550万人に向け順調に推移しているところでありますが、より一層の観光入込客増加を目指し、南北海道や青森県の地方公共団体、JRなどと連携した首都圏・東北地方でのプロモーションなど、活動の強化を図ってまいります。

とりわけ、新たな観光圏を確立するため、青森市、弘前市、八戸市と函館市の4市で設立した「青函圏観光都市会議」による都市間連携をさらに強固なものとし、青函圏の魅力を高めるとともに、平成28年度には、各地域の観光資源をパビリオンに見立てた「青函圏周遊博」を開催いたします。

また、青森県および道南、日高・胆振、ニセコエリアの自治体と連携した「青函圏・みなみ北海道連絡会議」において、各地域のイベントや新幹線開業施策等の情報を集約し、一元的に共有・発信するとともに、各地域のイベントやプロモーションにおいて連携を図り、青函圏、南北海道の広域観光を推進してまいります。

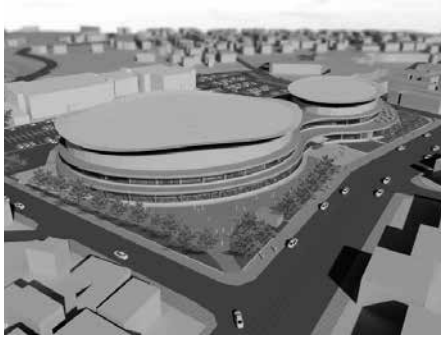
【北海道新幹線の開業と観光客の受け入れについて】

新幹線を利用した誘客を促進するため、官民連携組織である「北海道新幹線新函館開業対策推進機構」においては、「ようこそ！はこだてへ。」をキャッチコピーに掲げた啓発ポスターや街頭フラッグを市内各所に掲出し、PR活動に努めているほか、函館市新幹線開業記念イベント実行委員会により、今後、開業時はもとより、開業前200日、100日および開業後にも記念イベントを開催することとしており、開業に向けた機運の醸成を図り、あわせて賑わいを創出するとともに、地域の魅力を広く全国に発信し、交流人口の拡大を図ってまいります。

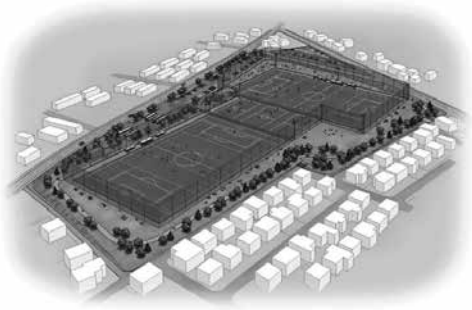
海外に目を向けますと、本市では、これまでの積極的なプロモーション活動が奏功し、台湾、中国との航空路線網が拡充し、外国人観光客が急増しており、昨年度の外国人宿泊者数は過去最高の約34万人となりましたことから、今年度におきましても、中国、タイ、台湾へのトッププロモーションに取り組むほか、中国から旅行関係者を招請するPR事業を新たに実施するとともに、海外での旅行博、商談会への出展を積極的に進め、外国人観光客の誘致を促進してまいります。

観光客受入体制の構築につきましては、これまでの代表的な観光資源にとどまらず、まちの新たな魅力を引き出す様々な施策に取り組むとともに、文化財や歴史的建造物の保存・整備に努め、既存の資源に新しい魅力を一つひとつ加え、点から線、線から面へとまち全体がテーマパークのような、訪れるたびに新たな発見があるまちづくりを進めてまいります。

函館駅前再開発ビル予想図



函館アリーナ



函館フットボールパーク

【新しい施設と開発計画】

この8月には、「函館アリーナ」と「函館フットボールパーク」がオープンいたしますが、地上3階建て、最大5、000人を収容できる「函館アリーナ」は誰もが使いやすいユニバーサルデザインの視点で整備しており、大規模コンベンション・スポーツ大会に対応し、一定期間の長期滞在が見込める各種学会や大会などMICE事業の推進を図ってまいります。

また、「函館フットボールパーク」は道南最大の多目的グラウンドであり、函館駅・函館空港からのアクセスが良好な好立地に誕生いたします。サッカー場が3面から5面、ラグビー場が1面から3面と大きく拡大し、今まで函館での開催が困難であった大規模スポーツ大会や合宿についても、誘致に努めてまいります。

函館駅前から五稜郭までの市電沿線地域である中心市街地の活性化事業につきましては、函館駅前の旧和光ビル跡地では、地下1階から地上2階が商業施設、3階から4階が公共施設、5階から16階までが分譲マンションとして、「キラリス函館」と愛称が決まった再開発ビルが建設中であるとともに、本町の旧グルメシティ五稜郭店跡地では、地下1階から地上3階が商業施設、4階が公共施設、5階から19階までが分譲マンションとなる複合ビルの建設が進められており、さらには、同地区で民間事業者がフードコートやサテライトスタジオを備える複合飲食施設「五稜郭ガーデン」を建設中でありますことから、これらが中心市街地の新たな名所となる予定であります。

旧グルメシティ五稜郭跡再開発ビル予想図

また、昨年、デザイン性に優れた函館駅前電車停留所を整備いたしましたが、今後、五稜郭公園前電停などにおいても同様に整備いたしますほか、バス停留所の整備、乗換案内情報等をスマートフォンなどで利用できるアプリケーションの開発を進めるとともに、函館駅前通についてはアーケードの撤去や電線類の地中化、歩道の整備を促進いたします。

さらに、今年は、「函館アリーナ」のオープンを記念し、GLAYによるこけら落とし公演が実施されましたが、現在、GLAYとコラボレートした宝探しイベントを開催しているほか、旧グルメシティ五稜郭店跡地の複合ビルの4階に、若者や起業家が集う場所として整備する「市民交流プラザ」のシンボルアートとして、新たにGLAYをモチーフとしたレリーフとからくり時計を整備するなど、全国から訪れるGLAYファンや観光客に広く函館の魅力を伝えるとともに、北海道の魅力を効果的に発信するため、北海道など関係団体と連携し、GLAYによる北海道新幹線PRのためのオリジナルソングを作成いたします。

【おわりに】

かつてこのまちが、国際貿易港として世界に門戸を開いたように、今、函館は新たな船出の時を迎えました。

私たちのまちには、豊かな自然や幾多の先人たちにより培われてきた「函館山からの夜景」、「異国情緒ある町並み」、「特別史跡五稜郭跡」をはじめとした数多くの歴史的観光資源や魅力があります。

まちに新たな魅力を一つひとつ加え、進化させていくことで、このまちを訪れる誰もが、今「はこだて」がおもしろいと思う、夢のあるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

このまちに思いを寄せ、人に思いを寄せ、今後の市政を運営し、これからも「函館再生」への「改革と挑戦」を続けてまいりますので、皆様におかれましては、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道も夏本番を迎え、函館を代表する夏のイベント「函館港まつり」、道南や日本各地、海外の姉妹都市からもおいしいグルメが集まる「はこだてグルメサーカス」などイベントが盛りだくさんとなっておりますので、北海道道南会の皆様のお越しをお待ち申し上げております。

結びに、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

わが町　厚沢部町

厚沢部町長　渋田　正己

はじめに

北海道道南会創立55周年おめでとうございます。

北海道道南会の皆様におかれましては、日頃より郷土道南の発展に多大なるご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、この度は薬袋会長様のご厚意により、厚沢部町の紹介並びに最近の動向をお知らせする機会をいただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

厚沢部町の紹介

厚沢部町は、北海道の南端、渡島半島の日本海に面した檜山振興局管内の南部に位置し、清流厚沢部川と緑豊かな山林を有する美しい自然環境と比較的温暖な気候に恵まれた地域です。

清流厚沢部川は、道南の鮎釣りのメッカとして知られ、解禁日には多くの釣人が厚沢部町を訪れ賑わいます。

町域面積の約8割を占める森林は、ヒノキアスナロ（ヒバ）のほか、五葉松の北限、トドマツの南限地域であるなど、学術的にも貴重な森林となっています。

本町の産業は、農林業を中心に発展してまいりました。

古くから「メークイン発祥の地」として知られる厚沢部町では、メークインの生産を中心に安全で良質な農産物づくりに取り組んで参りました。

近年では、アスパラガスやスイートコーンなどの生産にも力を注ぎ、これからも高品質で安心・安全な農産物を安定的に消費者に供給していこうとまい進しております。

厚沢部町も、昭和38年に町制が施行されてから、平成25年3月10日で50周年を迎えることができました。これもひとえにふるさと道南を支える皆様のご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。

あゆ釣り

最近の動向

本町の農業においては、高齢化や担い手不足、それに伴う耕作放棄地の拡大などが懸念されております。

担い手対策は、農業振興の根幹を成す重要課題であります。担い手育成条例に基づく後継者対策の一層の充実を図るとともに、地域おこし協力隊制度を活用した新規就農者の発掘を積極的に推進し、農業の研修実践を強化するなど、新たな経営体創出に向けた支援に努めているところです。

また、花嫁対策として、関係機関・団体と一体となり、農業者を中心に、出会いの場を提供して参りました。

なお、特別交付税措置のある「地域おこし協力隊」については平成25年から、都市住民8名が厚沢部町素敵な過疎づくり協力隊として、農業、福祉などの現場で活躍しております。

集落機能の低下までもが危惧されるなか、外部からの若い刺激力で、厚沢部町の持つ人や物など基礎的な資源が大きく生まれ変わり、農業のみならず地域の活性化に繋がっております。

また、近年の地球温暖化に伴う異常気象による農地災害を軽減するため、24年度から集中的に暗渠排水などの透排水性の改善を進めるなど、災害に強い優良農地の確保に努め参りました。

なお、平成26年3月に整備された種子馬鈴薯選別施設はこれまでの施設と比べ、多様化する実需者ニーズに対応可能な優れた選別機械を導入した施設となっており、農家経営の安定と向上に繋がっております。

観光面では、待ち望んでいた北海道新幹線が、平成27年度末に開業となり、平成25年9月にリニューアルした「道の駅あっさぶ」は、檜山の玄関口に位置し、町の情報発信

ヒバ爺さん

種子馬鈴薯選別施設での選別作業

の拠点施設として、その果たす役割は大きく、大いに期待しているところであります。売り場面積も大幅に増加したことにより、自慢できる新鮮な農産物など販売品の充実を図り、集客効果を一層高めております。

また、移住交流を促進すべく、関東圏や関西圏など都市部でのラジオ放送によるPR、教育観光の誘致、さらには、「ちょっと暮らし」事業の継続実施による交流人口の拡大を図り、「素敵な過疎のまち・あっさぶ」の応援団の獲得と拡大に努めて参りました。

道の駅リニューアル

定住人口確保の特効薬は企業誘致であり、若い人の雇用や安定した働き場所を誘致することが求められております。平成18年には、特産品の芋焼酎「喜多里」を製造する札幌酒精工業㈱の工場を、平成25年5月には介護付有料老人ホーム「ゆいまーる厚沢部」を誘致できたことで雇用の増加にも繋がっております。

急速に高齢化が進むなかで、本町においても確実に過疎化と少子高齢化は進行し、総人口に占める65歳以上の高齢化率は37％を超え、増加の一途をたどっております。社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、２０４０年には本町の高齢化比率は45％を超えると言われております。

ゆいまーる

高齢者が高齢者を介護する老老介護の状況も進み、公的な福祉サービス施策だけでは、限界があることは明らかです。行政が行き届かないところは、厚沢部町民が誇る良好なコミュニティー機能を活かした地域社会での支え合い、助け合いのほか、民間による福祉サービスの補完が必要です。

そのため、在宅福祉では、福祉委員による地域福祉活動の充実を図るとともに、社会福祉協議会の運営を支援するなど、自助、共助、公助のバランスを図りながら、13項目に及ぶ町単独の高齢者生活支援事業を継続し、住み慣れた地域での「安心な暮らし」を支えて参りました。

ゆいまーるスタッフ

ゆいまーるでの交流

また、前述の「ゆいまーる厚沢部」では、介護付き有料老人ホーム、そして経営は違うものの同施設内にあるグループホーム、いずれも満床状態で施設福祉対策の一翼を担っております。

むすび

私たちは、厚沢部町においても急速に進行する少子高齢化の現実をしっかりと受け止めつつ、財政を考慮しながら創意と工夫に富んだ施策をダイナミックに挑戦し、全力を傾注して「住みよい活力ある元気で輝くふるさと厚沢部町」の構築に努めて参りますので、皆様におかれましてもこれまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、道南へ帰京された際には、是非厚沢部町へ足を運んでいただき、農産物など、本町の魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

最後になりますが、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

五稜郭は日仏友好の証(3)

元函館市史編纂室長　紺野　哲也

(1)では、五稜郭（正式名称は、「亀田御役所土塁」）の測量開始に至るまでの経緯を記した。

(2)では、日仏との友好関係が深まった大事件を中心に記した。

(3)日仏友好の証」の最終回の今号では、五稜郭の見本とされるフランスのリール城塞との関係について述べてみたい。

ここで、先に「仕様絵図面とも早々取調」で上申せよとの指示のあった6カ月後、安政2（1855）年12月2日に「箱館御役所御引移地所土塁之儀ニ付相伺候書付」が上申される。この伺書も堀織部正利熙と竹内下野守保徳連名で、阿部伊勢守正弘へ進達された。「絵図面をみると、異形にみえるが」とあるので、西洋式の土塁設計図が初めて添付された。しかし、本邦初の試みなので、「入用は尋常の普請と違いひ凡検討できかね、今専ら取調中で、この絵図面で着工承認が下りと、直様見積に入る」とあるので、予算書の添付はなかった。このため、12日、絵図面のみでは細かく詳しいことまで分かり難いので、予算見積もりと設計仕様を添えて伺い出るようにとの指示がなされた。

「台場築方問答書」の存在と武田斐三郎が後に蝦夷地視察に訪れた土佐藩士（手島秀隆、下許武兵衛実重両人の「探箱録原本」に記載）に、「亀田塁砦（るいさい）、ひとえに佛蘭察様式によって営む、加て修飾をもってす、おもうに之を去歳舶来の佛夷（フランス人）に得候」と答えている。この時伝授された技術で、「亀田御役所土塁」の設計図が画かれ、この伺書に添付された。

役所の移転予算見積もりと設計仕様を進める中、同時進行で台場の築造計画も進んでおり、台場整備は弁天岬台場を最初に手がけることが決定され、安政3年2月24日予算書を付けた「箱館表御台場之儀ニ付再応奉伺候書付」を提出、工事着手の指令を求めた。この書付も竹内堀両奉行連名であった。この上申がなされた直ぐ後、「蘭学者武田斐三郎身分御取立之儀奉願候書付」も進達された。この書付も竹内堀両奉行連名であった。武田はこの時30歳、伊予大洲藩士の身分のまま堀と村垣の蝦夷地調査隊に加わって、そのまま箱館奉行の下で勤務を続けていた。調査隊に加えられたのはロシアのプチャーチンが長崎で幕府と交渉した際、オランダ語翻訳を担当、その実績が買われての蝦夷地調査隊に加えられたものである。工事の着手を見据えて、武田を正式に幕臣に取立ようとするものであった。手当金が1カ月7両、別段手当金（箱館は物価高直で難渋のためとある）1カ年30両をこれまで通り支給し、「蘭学抜群の者で、漢学にも長じ非常の才器と兼々見込でおり、異船碇宿中銃艦製造土塁砲台造築之方をも英仏両国人より筆授を得、分析諸術も精密を加へ、役々子弟其他有志へも伝授、分析所取建、同人を学頭し蠻学教授は勿論、用向万端に役立つので、当人は素々官録の之望も無いと云っているが、箱館奉行支配分析所学頭へ任命し、10人扶持」としたいとの上申であった。

8月21日に取立承認の指令が有り、分析所は諸術調所とするようにとの指示が付されていた。

工事予算に関しては、10月8日に「箱館表臨時御入用辻之儀ニ付再応奉伺候書付」（この上申書は竹内保徳1名の署名であったが、堀利熙とも村垣範正とも充分打合せ済みと付記）が提出され、弁天岬台場工事は今年中に、役所土塁は明年から着手したいので、早々下知を懇願すると上申した。

12月3日老中阿部伊勢守正弘から「先ず弁天崎台場の総予算は10万両とし、工事は早々着手、御下ゲ金年割の件は伺済の通りと心得、御役所土塁は明年より取懸る積りで、すべて見込の通」との指示が有り、竹内保徳は翌日「承付書（指令受諾書）」提出、工事着手が本決まりとなったのである。

ここで冒頭の翌安政4年5月16日の測量開始となるのである。

それでは、武田斐三郎が学んだコンスタンチーヌ号船将提供の書籍は、フランスのもっとも著名な軍隊技術者で建築家のヴォーバン（フランス国王ルイ世お抱えの軍事建築家とも紹介される）の城塞設計

日仏親善函館発祥の碑

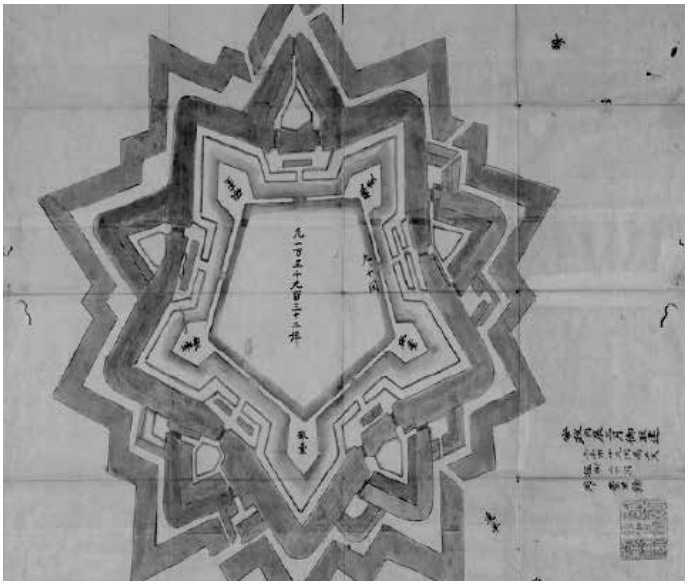
日仏親善函館発祥の碑　中央部

リール城塞　Citadelle de Lille

図等が載っていた書籍だったのだろうか。ヴォーバンは150もの要塞を建設あるいは修理した人物で、シャンゼリゼ通りの凱旋門の脇に銅像が立てられ、亡くなった後、遺体の一部はオテル・デ・ザンヴァリッドのドーム教会の地下墓所に安置されている（中央にフランス皇帝ナポレオン1世の柩を安置）。しかし、安政2年9月に幕府は、箱館奉行竹内保徳に命じ、英・仏両国士官寄贈の砲術・鋳砲・築堡書等を江戸に送付せしむと（『維新史料綱要』）あるので、函館に残された資料からの確認は難しいのでは。

ヴォーバンの防衛施設群は、その内の12個所が2008年に世界遺産に登録された。「日本・フランス観光開発機構オフィシャルサイト」は、「17世紀の天才軍人技師ヴォーバンの城塞か、現代建築の巨匠ル・コルビジェの作品群のどちらを世界遺産の立候補地として推薦するか、かねてよりフランス国内で論争が分かれていましたが、2007年はヴォーバンの没後300周年だったこともあり、フランス国内で世界遺産委員会へヴォーバン城塞の立候補が決定、正式な登録へと結びつきました」と説明している。しかしヴォーバン城塞の中で「5角形の星をかたどった外観の見事さから「城塞の女王」と呼ばれるリール城塞（Citadelle de Lille）は、世界遺産に含まれていない。

フランス陸軍が2005年7月1日に新編した、北大西洋条約機構や欧州連合の防衛・安全保障任務に参加すべく編成された軍団級の地上軍即応部隊司令部「フランス緊急対応軍団司令部」がリール城塞内に置かれているためである。ユネスコの報告書では検討対象とするように勧告されているそうだが。



五稜郭当初設計図か　函館市図書館所蔵

そこで、「城塞の女王」と呼ばれるリール城塞と函館中央図書館収蔵の「五稜郭」当初設計図と云われる図面を競べてみていただき、「五稜郭」のイメージを深めていただければと思う。（完）

はこだて人物誌⑩
地原専蔵・耕一

道南会会員　沢株　正始
幸小学校出身

中学から高校にかけて、私の最大の娯楽が映画館通い。十字街には松竹、銀映、ロキシーがあり、さらに大門辺に足を伸ばせば公楽、大映、セントラル、映劇、大門シネマ、東映、ニュー東宝、テアトル、富士館、そして巴座等など、『函館市史』（通説編第4巻）には20軒以上もの映画館が名を連ねています。

西部方面の住人には銀座通りが至って便利、洋画好きの私は特にロキシー・ファンで、10円の魚のソーセージをかじりながら、週に2度は行ったものです。当時の入場料は4円99銭、これは5円以上だと税金がかかるのでギリギリの設定とか。ちなみに私の最初の西部劇体験は、当時、十字街の丸井百貨店の最上階で観た「悪漢バスコム」でした。

大門方面では公楽と映劇がメインでしたが、たまに入ったのが、現在のホテル函館ロイヤルの敷地辺りにあった巴座で、時代色のにじんだ幟りが印象的でした。回り舞台に昔ながらの升席という作りは、もともと巴座劇団の芝居や剣劇、また歌舞伎などを楽しむ実演劇場として始まったからですが、世の風潮に合わせて昭和28年に映画上映の劇場に転身しました。私が通い出したのはほぼその頃以降ですが、たまに実演興行もあり、今でも脳裏に鮮やかに残っているのが君島道之助一座です。

函館大門前

巴座がいつ出来たかは分かりませんが、明治40年にはすでに存在していたことは確かです。この巴座の発展に大きな力を発揮したのは、鳥取県出身の地原専蔵でした。昭和初年、彼は力士に憧れて家出し、鶴ヶ浜の四股名で関脇にまでのぼります。そして引退後、年寄となって地方巡業のために北海道各地を飛び回っているとき、旭川で興行会社の社長に見込まれてこの世界に入りました。

世はまだ無声映画の時代でしたが、新しい時代劇が登場し、

函館・巴座

函館若松町

松風町京極通り

大河内伝次郎、坂東妻三郎、月形竜之介、片岡千恵蔵、長谷川一夫らのスターが生まれて人気を集めてきましたが、大衆娯楽の中心はやはり劇場でした。世間を騒がせた珍事件や人情ものなどが喜ばれましたが、これらは所詮きわものであり、すぐにあきられてしまいます。そして不況の影が漂い始め、地方巡業劇団にも影響が出てきます。この当時、町のひとが手軽に集まったのは、チンドン屋と紙芝居で、紙芝居のヒーローは〝黄金バット〟でした。

すでに小樽の中央座で支配人として手腕を発揮していた専蔵は、昭和14年この職を辞し、本格的興行師としての活動に賭けようと思い立ちます。東京少女歌劇団を編成したり、戦没兵士の戦記物を浪曲化して、浪曲家一座による戦死者の出身地めぐりなどを試みるものの、採算が合わず事業の難しさを実感したとき、新しいチャンスが巡ってきました。それが函館巴座の経営でした。

もともと巴座は、現在のスーパーホテル函館の位置に大通りに面して建っていたのですが、昭和9年の大火で灰燼に帰し、同11年、少し位置を変え現・ホテル函館ロイヤルの場所に新築落成されました。染め抜き大幟りの脇を、内木戸、下足番を通って中へ入れば土間仕切りの客席は定員4人の升席。

当時、北海道巡業を目指す興行はすべて玄関口・函館が初日であり、歌舞伎、浪曲、演芸、芝居のすべてが、函館初演の評判や人気を背にして奥地へ向かったといいます。しかし、大森遊郭も近く、華やいだ雰囲気の街並みにありながらも、経営面では依然行き詰まっており、そこに迎えられたのが地原専蔵でした。

前の経営者の不義理などから、この時、巴座の社会的信用は地に落ちており、またよそ者に対する函館人の冷たさもあって、専蔵の苦労は並大抵のものではなかったといいます。

芝居・浪曲・楽団などの実演では足りず、カフェーの女給を動員しての歌謡コンクールを企画したり、息つく間もない苦労の連続のなか、なんとか軌道に乗ったと感じられたときには第二次大戦が始まっておりました。

そしてその矢先、専蔵は過労で倒れてしまいます。止むをえず一人息子の耕一に進学を断念させ、スパルタ方式で後継者教育を施しました。しかし戦況は悪化する一方、20年7月14日、空襲により大門交差点付近も大きく破壊され、敗戦を迎えます。戦後はGHQの司令で芝居では仇討ものは禁止され、検閲も行われるようになり、状況が大きく変わってきます。映画では片岡千恵蔵、坂東妻三郎、嵐寛寿郎らの大俳優も背広を着て現代劇に登場することもありました。また公娼廃止により全盛時に120軒余りの貸座敷と七百余名の娼妓を抱えた大森遊郭も80年の幕を閉じました。

巴座のほうは、三代目の耕一が時代に合わせた企画を模索、複数の座長連に働きかけて、巴座劇団として新しい興行形式を生み出しました。最初に書いた君島道之助のほかに月岡誠、月冴子といった座長連が持っている十名前後の座員を交流させてレパートリーを増やし、それぞれの一座には競争意識が生まれて芝居が大きく見えるようになったといわれました。

しかし時代の変化は激しく、大入り満員の時代もそう長くは続かず、大衆娯楽の中心は映画に移っていき、巴座も升席を椅子席に改装したりしますが、7年続いた巴座劇団も解散、昭和28年、函館唯一の実演専門劇場は消えました。

ちなみに巴座の名前の初見は「改正函館港全図」（明治32）で、所在も明示されています。

〔参考資料：『はこだて―自然と文化』第9号、昭和52年〕

北海道道南会のホームページ

北海道道南会では、ホームページを開設して、新年総会・懇親会や夏季懇親会、お花見、真夏の暑気払い会、忘年会など、各種会合と季節ごとの行事のご案内をお知らせするほか、楽しい集いの様子などを紹介した活動報告、さらにこれまでに発行された会報「道南」のバックナンバーを見ることができるようになっております。

会合のご案内やご報告などは、その都度最新のニュースをお届けするようにしております。ホームページをぜひご覧ください。

北海道道南会・ホームページ・アドレス　http://hokkaido-dounankai.com/

注）「北海道道南会」と検索していただければ、ヒットします。

北陸新幹線の街
飯山と函館とのご縁

森本　貞子

今年3月、北陸新幹線が開通し、長野と金沢が直接結ばれたせいで、ゴールデンウィークの連休には昨年の3倍の利用客があったそうである。しかも客車のドアにはこの沿線と縁の深い唱歌「故郷」にちなんで兎の絵が描かれているとか。

兎追いしかの山
小鮒釣りしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき故郷

誰もが愛唱したこの唱歌の作者は長野県出身で明治9年生まれの高野辰之。長野県師範学校卒業後、北陸新幹線沿線の街・飯山の小学校教師の時、真宗寺（島崎藤村の小説では蓮華寺）に下宿しており、後にこの寺の娘・鶴枝と結婚しているのである。

真宗寺の当時の住職・井上寂英の次女の鶴枝は明治13年生まれ、なんと幼少の学齢以前に東京大学の教授で近代地震学の父と称えられるジョン・ミルン師に英語習得と養女候補として一時同居していたのだそうである。ミルン夫人のトネは函館の願乗寺（現・本願寺西別院）の娘で飯山の真宗寺とは同宗の寺院であったのでこのようなご縁となったのだろう。

真宗寺住職一家
前列左から　住職の妻・よし枝　住職・井上寂英　弘円妻
後列左から　次女・鶴枝　長女・玉枝　長男・弘円

鶴枝は17歳で22歳の高野辰之と結婚、二人は明治31年に上京し、東大教授だった上田万年を頼り、高野は文部省の下級官吏となった。だが辰之はその後「紅葉や「朧月夜」など誰もが愛唱する唱歌を作詞し、「日本歌謡史」などを著して文学博士、東京音楽学校教授となっている。

なお、飯山・真宗寺の寂英住職の長男・井上弘円は西本願寺の当時の最高権威者・大谷光瑞と共に日本人として最初のシルクロード探検隊員として活躍し、同行したのも真宗寺の長女・瑞枝の夫・藤井宣正である。一行は明治34年当時既に英国に帰国していたジョン・ミルン、トネ夫妻の英国ワイト島のオズボーンにある地震研究室兼邸宅を訪ねている。ミルン教授が明治9年に日本に来る際、約6カ月半かかってシベリアを始めゴビ砂漠などを横断して万里の長城及び北京、上海を経ての旅についての経験談を聞くためであった。

小諸時代の藤村

島崎藤村夫人

大谷光瑞の高弟堀哲信も同行し、井上弘円、藤井宣正たち4名とミルン夫妻がミルン邸の庭で写した写真が残されている。その際ミルン夫人トネは大谷一行とミルンとの通訳を始め彼らを心からおもてなしをしたと伝えられている。なお、藤井宣正はシルクロード遠征を前に明治36年6月6日、マルセーユで客死している。

函館に藤村を迎えて
前列左から　冬の父・秦慶治　母・房
後列左から　藤村　長姉浅の夫・秦貞三郎

また、島崎藤村は、当時長野県小諸に在住していたが、飯山の真宗寺の長女・瑞枝は東京の明治女学校に在学していた際、藤村も同女学校の教師であったことから真宗寺を訪ね、その際、渡欧中の藤井宣正が瑞枝に送った絵葉書を題材にして小説「破戒」に先行する短編「椰子の葉陰」を著している。その後に藤村は真宗寺をモデルにした「破戒」を著し、この小説は現代でもロング・セラーを続けている。

ところが、「破戒」には真宗寺（小説では蓮華寺）の当時の住職井上寂英を女狂いの僧として描かれていて、実際には清潔な住職だけに妻よしえは怒り、娘婿の高野辰之も藤村を糾弾（きゅうだん）している。だが、寂英の孫井上弘雄と藤村の長男楠男の時代になって両家は和解し、現在は真宗寺の境内に「破戒祈念碑」が建立されている。

なお、小説「破戒」の出版費用は藤村の最初の妻冬子の父秦慶治が支援したのである。彼は函館の富裕な網問屋であっただけに、４００円（現在では約一千万円）の資金を支援してようやく出版できたのである。藤村夫妻は当時長野県小諸の小諸義塾の教師として同地に在住していた。冬子の３女出産の手伝いに、函館より小諸に出向いた冬子の母ふさに冬子はあらかじめ出版費用の支援を父に依頼してと願っていたお陰で、藤村が函館へ出向いた明治37年7月に直ちに秦慶治は承諾してくれたとのエピソードがある。

函館の秦家の支援があってこそ藤村の大作「破戒」（飯山真宗寺が舞台の小説）が出版できたのである。

ミルン邸にて

函館と飯山。距離的にかなり離れた街が関わり深いご縁で結ばれたのはジョン・ミルン、トネ夫妻をはじめ真宗寺の人々も、島崎藤村も秦慶治も大谷光瑞までも当時の社会に吹きよせる新しい文明、文化の風を敏感に受けとめていたからこそ深いご縁で結ばれたのだと思われてならないのである。

北海道道南会 会員プロフィール

平成23年に発行した「道南会創立50周年記念誌」では、会員のプロフィールを掲載いたしました。創立55周年を迎えました今年は、この５年間に入会された新入会員の皆様にプロフィールをご執筆いただきました。ご紹介いたします。

（五十音順に掲載）

池田さなえ

道南会創立55周年おめでとうございます。私は、昭和26年函館の住吉町で生まれました。父は立待岬の浜で漁師をして、私たちを育ててくれました。私は８人兄弟の末っ子として生まれました。父は明治34年、母は明治40年の厳しい仕付けで育ちました。この歳になるとやたら故郷が恋しくなりますね。現在、はこだて観光大使をしていますが、日本一良い街だと思っています。年に一度は先祖の墓参りに帰ります。すべては先祖に感謝、感謝です。函館にも！　道南会が永く続くことを望みます。

井上　千春

昭和58年鹿部町のイリエ水産の長女に生まれる。両祖父が七飯町議員と鹿部町議員だった関係で、海の美味、畑の美味の中で育つ。遺愛高を卒業。青山学院大へ進学。大映テレビ（株）へ入社。青山学院ＯＢのご縁で歌舞伎俳優の大谷桂三と出会い結婚。松竹（株）の創業者・大谷竹次郎氏に応援されて独立し、初代として活躍する大谷桂三と長男をもうけ、初御目見得を本年９月に控えている。長い歌舞伎界の歴史の中で、道産子の歌舞伎俳優が生まれるのは初めてのこと。

今井　雅子

函館生まれ。西小学校、西中学校、函館中部高等学校を卒業。昭和61年女子美術大学油絵科卒業。その後、ベルギー王立美術学院に留学。東京在住。帰国後、東京の企画画廊及び函館の棒二森屋で個展を定期的に開催。今年の夏も８月13日から棒二森屋で個展を開催予定。ヨーロッパの風景を描いてきましたが、最近は函館、北斗の風景を中心に絹下地にプラチナ箔、金箔を用いて制作しています。函館近辺を改めて美しいと感じています。

岩井　久江

昭和21年生まれ。父の転勤のため、八雲町、七飯町、松前町等に住む。遺愛中学、高校を卒業。函館市立看護学校を卒業後上京し、看護師として都内で勤務。現在は町田市に在住。趣味は55歳から始めたテニス。今はテニスが一番の楽しみで、日々のめり込んでいます。函館へは毎年５月と９月に両親のお墓参りを兼ねて函館近辺の風に吹かれて命の洗濯をしてきております。道南は一番！

沖山　雅子

昭和27年鹿部生まれ。鹿部小・中卒。白百合高校入学より親元を離れ、北里大附属で学び、臨床検査技師となる。就職、結婚と東京での生活が40数年。昔は3人の子と共に、今は釣り好きの主人と年に一度は里帰りしております。親戚の紹介で道南会に入会。現在はわずかな仕事、町会役員、趣味と忙しい日々を送っています。先輩会員の活動的な姿に刺激されながら私も第二の人生を謳歌できたらと思います。同郷人に声かけをし、会がより発展することを願っています。

笠川　豊彦

昭和28年東川町生まれ。東川小、旭中学、函館高専卒業後、昭和50年横浜のプラント建設会社に就職。東南アジア、中近東などの諸国向けプラント輸出業務に従事し、東奔西走の日々で40年経過。遠い異国の地に長期駐在時には、若き日を過ごした函館に郷愁を馳せ、いつの日か故郷に錦を飾る日を夢見て職務に励んできました。気がつけば還暦を過ぎ、今なお、その果たせぬ夢を追いかけ続けています。健康であれば必ずや夢は叶うと信じて。

柏崎真由子

昭和55年函館生まれ。日吉が丘小学校、湯川中学校、白百合学園高等学校を卒業後、東京造形大学へ入学。大学にて様々な表現の在り方を学ぶ中、「能楽」に出会う。その幽遠な世界に夢中となり、大学卒業後、能楽師としての道を志す。現在は、演能の傍ら、学校や老人ホーム訪問等、幅広い年齢層へ向けた普及活動に力を注いでいる。毎年函館にて能楽講座を開催。文化と芸術の力で函館を元気にしたいと考えている。

久慈佐津子

昭和19年函館生まれ。八幡小、潮見中、函館商業高校を卒業し、相馬(株)に勤務。結婚して七飯に15年住む。主人の転勤で横浜鶴見区に移住。母方の尊父が茶と書道家だった性か、茶の湯にのめり込んだり、書歴は60年にもなるでしょうか。現在も展覧会作に追われながら、35年続けております書道教室も相変わらず函館弁が飛び出して苦笑しながら子どもたちの育成と、大人の方々にも書の楽しさが伝えられたらと毎日奮闘しております。

佳山　明生

(本名　長谷茂浩(ながやしげひろ))

歌手。昭和26年函館市生まれ。谷地頭小、潮見中を経て、国立函館高専へ進学(中退)。昭和45年作曲家・古賀政男氏の最後の門下生として師事。昭和48年美輪明宏さんより芸名をいただく。昭和52年12月コロンビアレコードより「氷雨」でデビュー。昭和58年に「氷雨」が旭川有線大賞、全日本有線大賞グランプリを受賞するなどヒット。翌年(1983年)全国的ヒットに。昭和58年12月第25回日本レコード大賞のロングセラー賞受賞。はこだて観光大使。

窪田　恭子

昭和46年函館生まれ。函館西高校卒業後、進学のため函館を離れ、東京で看護師として勤務をしています。職場で山田克明氏と知り合い、道南会にお誘いいただいて入会しました。仕事の合間を縫って趣味の登山を楽しみに全国各地を飛び回っています。函館には、両親と妹が住んでいますので、毎年一～二度帰函しています。帰省するたびに街中は変わっていきますが、函館が活気づいていつまでも自慢の故郷であって欲しいと思っています。

小林智恵子

昭和8年人見町生まれ。千代ケ岱小、遺愛中高卒。小さいときから日本舞踊のお稽古に通いました。お師匠さんはとても厳しい方で、芸は勿論、行儀、作法も学び、中学2年で若柳智胤と名取りに。旅行が大好きで年に何回か出かけます。特別心に残る旅は、南米のパタゴニア・イグアスの滝、ボリビア塩のホテル、ベッド、食卓すべて塩は驚きです。コスタリカ、マダガスカル等々、国内、海外旅行の度に五感を刺激され多くの知識を学びます。また沢山の人と出会いすばらしい人生です。ふるさと・函館は大好きです。

佐々木俊克

昭和25年函館市生まれ。私は5歳まで函館市元町の渡島支庁の敷地内官舎に住んでいました。基坂から眼下に見下ろす函館港は私の原風景です。函館山も含めて一帯は遊び場でした。その後、渡島支庁の移転とともに元町を離れ、五稜郭町に転居して千代田小学校に入学。校舎の向かいは火葬場で時々煙が上がっていた光景も覚えています。今の本町交差点一帯が目覚ましく変わっていったのが私の幼年時代です。今年65歳。70歳を過ぎたら〝原風景〟に戻りたい。函館商業高校卒業。現在、函館商業高校同窓会副会長。

嶋村　悦子

当時の女子商業を卒業後に札幌に移る。結婚後、主人の転勤で、北海道・沖縄等へ移動した後、現在は熊谷に在住。道南会には同窓会の方からの紹介で入会し、今年で3年目になります。娘が歌手として奇跡のメジャーデビューをして、道南会の新年会で歌わせていただきました。娘の歌手活動に会の方々に熱い応援をいただき感謝いたしております。私にとって人との繋がりが財産だと思っております。これからもすばらしい出会いに感謝し、人生を楽しんでゆきたいと考えています。

白川　正広

昭和31年函館生まれ。港小・中学校、函館中部高校を経て、京都大学で放射線管理学を専攻。国内初の原子炉を英国から導入した富士電機で30年間、原子炉の廃炉関連の開発に従事し技術士を取得。東日本大震災以降は、太陽光・風力発電等の再生可能エネルギーの業務に移り現在に至ります。函館中部高校同窓会東京支部で十年前から理事・副支部長として主に渉外活動を担当しています。趣味はゴルフと7年前から始めたチェロ演奏。

千歳　芳光

昭和30年函館市杉並町生まれ。谷地頭小、潮見中、函館東高卒業。税務大学校札幌研修所(国税局研修機関)を修了し、昭和50年上京。明治大学卒業。平成に入り関東青雲同窓会入会。平成25年当会入会。東京での生活が40年以上となり、両親も他界し、函館(北海道)での思い出は遥か遠いものとなりつつありますが、当会の会合に参加し、故郷の懐かしい思い出と新しい情報に出会えるのを楽しみにしています。

祝　北海道新幹線開通。

永井　均

昭和16年函館生まれ。若松小学校、新川中学校、函館商業高校卒業後、東京に本社を置く某社（商社）の函館出張所に就職。札幌、東京、仙台、盛岡、インドネシアに在勤し、満56歳の時に準定年退職。その後、在京の2社に再就職し、最終的にサラリーマン生活を終えたのは平成18年でした。豊富な自由時間を利用して近現代史研究に多くの時間を割く他、英会話、太極拳、囲碁、サイクリング等で日々を過ごしております（最終学歴・中央大学法学部＝通信教育）。

永塚津江子

昭和38年函館生まれ。谷地頭小、潮見中卒。函館女子商業高でハンドボールに出合い、福井国体も経験し、充実した青春を過ごしました。現在は、横須賀海軍基地近くで酒店を営んでいます。道南会の皆様と郷里のお話ができ、また函館音頭を踊り、幼い頃の港まつりのことが懐かしく思い出されました。年に1回は帰省し、友人や後輩と美味しい海の幸を満喫するのが楽しみです。北海道新幹線の開通の折には道南会の皆様と旅行できるのを楽しみにしております。

野口　晴雄

昭和24年生まれ。千代田小学校卒。有斗高校卒業後上京。医療関係の仕事を経て、社会福祉法人に入職。施設長、監査室次長となる。昨年、定年退職。その間、社会福祉協議会役員等を勤めた。現在は（社福）評議員、ＮＰＯ法人理事、東京の同窓会幹事として活動中。今までは仕事、仕事で函館に帰ることができなかった。そのため故郷の事情に疎く、友人等の消息も分からない浦島太郎状態でいる。今後、定期的に函館訪問を行いたい。

花巻　省三

昭和23年、旧大野町（現北斗市）生まれ。市渡小・大野中・函館中部高から北大経済学部へ進学。卒業後、旧北東公庫（現日本政策投資銀行）へ就職、地域開発を実践。北東地域の開発に携わり、函館圏では函館山の大型ロープウエイと山頂施設の開発、西部・五稜郭・湯ノ川地区の観光振興などで地元の皆様と汗を流した。退職後、道内の産業界に身を置き、昨年6月、42年間の勤め人生活を終え、東京・調布市で自適の生活。孫の世話や友人達と旧交を暖める日々。趣味は、読書・旅行など。

松本　龍二

昭和34年栄町生まれ。東川小、旭中、函館有斗高を経て上京。國學院大學文学部哲学科卒。現在、全国建設総合専門紙の日刊建設通信新聞社で企画局長を務める。自由市場のアワビ、五島軒のカレーライスなどを食べに、毎年1、2回、函館に帰省。小中高と巴座、スカラ座などで映画鑑賞。映画館、映画好きもあり、函館市民映画館シネマアイリス創設を支援。函館を舞台にした映画『海炭市叙景』『そこのみにて光輝く』製作にも関わる。

横井　透

昭和49年柏野小卒。昭和55年上京し、大学卒業後は某広告代理店入社。17年間コピーライターとして勤務後、平成12年同職種にて起業独立。「言葉」の力を信じ、人や街やモノや企業の「らしさ」について、どのように伝えるかをこだわりとしている。最近思うことは、「函館らしさ」とは何か。函館を故郷とする者が、昔と今の函館らしさをしっかり伝えることで、函館の未来につながると考え、それを大切にしていきたいと思う。

吉野　俊郎

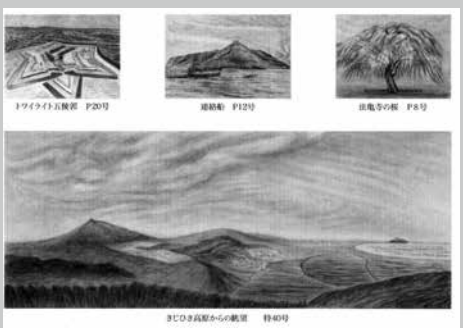
昭和13年函館生まれ。若松小、新川中を経て、函館商業高卒。昭和35年、日油（株）（旧社名・日本油脂（株））食品事業部、健食営業部に入社。定年退職後、足立区の住民センターに定年（72歳）まで勤務。現在は、地域の公益活動を行うことを目的として自主的に設立したＮＰＯ法人の会員として、高齢者の支援などで地域活動に参加しております。趣味は、観劇、謡曲、カラオケと広く浅く、特に道南会や同窓会で皆様との交流を楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。

和田　秀志

昭和24年奥尻島の漁師の家に9人兄弟の5番目として生まれ、青苗小3、4年の時、船に乗りいかつけの貴重な体験をした。小樽千秋高卒。2浪後、地元郵便局に就職。研修を経て、東京郵政局と管内集配普通局10局に31年間勤務。25年位前に特許等の奨励団体「発明学会」に入会。2年前に、会の集まりで道南会の小山和彦さんに会い入会。定年退職後は、板橋区の朝市等で魚介販売と、商売の真似事を細々と。因みに執筆現在、兄弟9人は皆健在です。

今井雅子さん個展

函館や北斗市の風景を中心に油彩画の制作活動を精力的に行っている今井雅子さん（北海道道南会会員）が、８月１３日（木）から１８日（火）まで、函館棒二森屋・本館７階特選サロンで個展を行います。
夏休みに函館へ行かれる方はぜひおでかけください。



北海道道南会55周年記念 ふるさと訪問旅行

北海道道南会副会長　三村　寿雄

『北海道道南会55周年記念ふるさと訪問旅行』は、5月24日（日）～26日（火）の2泊3日の日程で無事終了致しました。

24日、羽田空港の午前10時45分発の飛行機で、当日参加者21名が函館を目指しました。函館では、午後5時よりベイエリアの《みなとの森》レストランにて、函館先発組を含めた道南会の25名と函館市関係者、片岡副市長、小山内観光部長を始め、以前東京事務所に勤務されていた酒井氏、関谷氏、広部氏、西谷氏、そして七飯町の中宮町長などとの交流を深めました。

羽田空港にて

25日は専用バスにて仙境の湯として人気の銀婚湯へ向かいました。途中、八雲物産協会の吉田氏のガイド案内で開拓移住者上陸の地・木彫り熊資料館・梅村庭園・八雲育成牧場などの八雲の歴史探訪後、ハーベスター八雲にて昼食。八雲は、二海（ふたみ）郡八雲町。名前の通り太平洋と日本海の二つの海を持つ日本で唯一の町。吉田氏のガイドで八雲町の歴史や観光名所などを見学し、色々知識を得ることが出来ました。

ハーベスター・八雲で

銀婚場の前で

昼食後は、早目に目的地の銀婚湯へ到着。銀婚湯は、純和風の温泉旅館。到着後早々に源泉掛け流しの温泉に入浴。湯あがりの後は、敷地内の散策路に有る隠し湯めぐり、また中庭を望みながら思い思いにくつろいで6時30分より宴会開始。

食事、お酒が進む中、佐々木俊克氏・川瀬俊吉氏の切れの良い音頭によりカラオケ大会に入り、楽しい時間が延々と続来ました。宴会時間もかなりオーバーしましたが、二次会の『金仙花』でも大いに盛り上がり、お酒の方もかなり進みました。

新函館北斗駅

26日は、大沼公園から来年開業の新幹線駅『新函館北斗駅』を経由して、函館駅・国際ホテルに全員疲れも見せず帰って来ました。午後1時30分より、薬袋会長以下役員10名で函館市市役所を表敬訪問。工藤壽樹市長も貴重な時間を割いて函館市の現状や人口減少、東京の学校を出ても、函館に戻って就職する企業がないことなど、大きな課題ついてのお話もありましたが、新幹線の開業に向けての観光函館の大門地区の活性化、また今年完成するコンベンション施設・函館アリーナのこけら落としとして7月25日、26日に行われるGLAYのコンサートの開催などの明るいお話も聞く事が出来ました。

工藤壽樹函館市長と

道南会会員である我々も観光PRを始めさまざまな分野でこれからも支援して行こうではありませんか。

最後に今回の訪問旅行は天候にも恵まれ一人の落後者もなく楽しい旅行であった事を感謝致します。来年は新幹線も開通するので新幹線での帰函旅行を是非計画したいと思います。

ふるさと会だより

「北海道ふるさと会連合会」新年交礼会

道南会副会長　三村　寿雄

平成27年度新年交礼会が1月17日(土)明治記念館富士の間で開催された。

会には、各ふるさと会、企業会員、協賛企業団体などの190余名が参加した。

森隆信会長は「同郷の仲間の集いで、益々相互の親睦を図り絆を強くしたい」と挨拶。高橋はるみ知事はビデオメッセージで「北海道は今、食と観光が注視され海外からの観光客が急増。来年は新幹線が新青森から新函館北斗まで開通し札幌までの完成も当初予定より5年短縮され2030年となった。ふるさと会連合会の方々が北海道発展のために協力されていることに感謝している」と述べた。浦本元人北海道東京事務所は「最近リスク分散の目的で保険会社が札幌本社を立ち上げた。海外からの観光客が115万人を達成」と述べた。東京室蘭会長は「これからの北海道の発展にはこれまでの一次、二次産業に依存せず、第三次産業を興す必要がある」との挨拶の後、乾杯。その後歓談に入った。歓談中各ふるさと会の代表20名が次々とふるさとのPRや催しものの紹介を行った。

最後に東京旭川会会長の力強い一本締めで閉会となった。

「東京かみのくに会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

「第18回東京かみのくに会定期総会・懇親会」は平成27年3月28日(土)ホテルパークサイドで11時30分より来賓・会員及び関係者78名が出席して盛大に開催されました。

総会議事は倉谷久会長より26年度活動報告並びに決算報告があり、特にAED(自動体外式除細動器)・緑化推進協力化費報告等の挨拶の後、ご来賓の上ノ国町工藤昇町長より、ふる里の現況、特に来年の北海道新幹線開業に関連して、道路の整備、また、過疎化に伴う小学校の閉校、農業関連等諸施策について紹介され、若い者が安心して住める町、暮らせる町を目指して町政に取り組んで行く旨の挨拶がありました。

続いて若狭大四郎議長の挨拶の後、ご来賓の方々の紹介、新役員の紹介がされ第一部総会が終了しました。

懇親会は、檜山漁業組合市山亮悦理事長の乾杯発声により祝宴に移る。会場では故郷の映像が映し出され、町の状況に見入っていた。お楽しみ抽選会で盛り上がり、舞台では江差追分、歌謡ショー、カラオケが演じられ、会場は大変な盛り上がり。また、ふるさと、「北国の春」の合唱、上ノ国音頭を歌い踊り、会場は更に盛り上がりを見せ楽しいひとときを過ごしました。

「東京ふるさと七飯会」総会・懇親会

東京ふるさと七飯会会長　薬袋　泰

平成27年「東京ふるさと七飯会」の第26回定期総会・懇親会は4月4日(土)正午、上野公園の創作中国料理「旦妃楼飯店」で開催されました。初参加の方3名を含め26名の会員が出席されました。

ご来賓として、ふる里七飯町から中宮安一町長が出席され、郷里の現況等を報告されました。特に、北海道新幹線が28年春に開業することに伴い、「道の駅」の誘致など、町の観光産業の振興や地域経済の活性化等々。また、新幹線の総合車両基地が五番目の大型の基地として完成したと報告されました。

ご来賓の北海道道南会副会長島田瑞子様、東京大沼会代表澤出重雄様のご挨拶の後、続　薫幹事の乾杯により祝宴に移る。ふるさとのワインで喉を潤し、和気あいあいの語らいが続き、楽しいひとときを過ごし、みんなで「ふるさと」等々を合唱。ふるさと七飯町を想い、故郷の懐かしいお土産を手に散会しました。

「北海道福島会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

「第15回北海道福島会定期総会・懇親会」は平成27年4月12日(日)アルカディア市ヶ谷で午後1時より来賓・会員及び関係者66名が出席して盛大に開催されました。

総会議事は、角谷 和雄会長より26年度活動報告並びに決算報告があり、特に、北海道ふるさと会連合会主催の「産直フェア」では地場産品の販売を通して「二大横綱の里・海峡の町福島町」のPRに大勢の会員が協力した等々の挨拶の後、鎌田博喜新会長の紹介をされ第一部

総会が終了しました。
　懇親会では、ご来賓の福島町佐藤卓也町長より、ふる里の現況、特に来年の北海道新幹線開業に関連しての諸施策についての報告、挨拶があり、続いて溝部幸基議長の挨拶の後、新家鶴男北海道ふるさと会連合会長代理の乾杯発声により祝宴に移る。会場は、九重部屋の千代鳳関、千代皇関の出席で華やぎ、お楽しみ抽選会で盛り上がり、舞台では余興、カラオケ等で大変な盛り上がりを見せ楽しいひとときを過ごしました。

「東京奥尻島人会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

「第42回東京奥尻島人会総会&新春懇親会」は、平成27年4月26日（日）グランドヒル市ヶ谷2F「白樺の間」で、13時より、97名（会員79名、来賓18名）が出席して盛大に開催されました。
　総会では、和田穂積会長より、「桧山の森づくり植樹祭」参加、室津祭に参加等々の活動報告の後、田中敦司副町長など、ご来賓の方の祝辞が続き、板谷博函館奥尻島人会事務局長の乾杯のご発声により祝宴に移った。
　奥尻島のPR映像が映し出される中、特産品の販売が行われた。舞台では西海谷和雄さんの尺八演奏、江差追分日本一の杉本武志さん・津軽三味線日本一の椿正範さんによる民謡等がそれぞれ披露され会場は盛り上がり、更には、奥尻珍味プレゼント抽選会で会場は更なる盛り上がりを見せ、再会を確かめあって散会した。
　東京奥尻島人会では、昨年に引き続き、今年も池袋サンシャイン文化会館で開催の全国離島フェア〝アイランダー2015〟で島人会役員、会員が全面的に協力し物産販売に参加します。
　また、7月の奥尻島室津祭りには、今年も参加ツアーを計画、募集します。

「東京大沼会」懇親会

道南会副会長　三村　寿雄

　第13回東京大沼会が6月27日（土）上野グリーンパーク旦妃楼飯店にて12時より、会員39名、ゲスト3名の総員42名の出席者で開催されました。
　代表世話人の川瀬俊吉氏の開会宣言後、ゲスト参加の七飯町の中宮安一町長より大沼国定公園が「新日本三景」に選ばれてから百周年を迎えた。ちなみに、新日本三景は、大沼国定公園・静岡県の三保の松原・大分県の邪馬渓。さらに来年3月の北海道新幹線の開業と七飯町は節目の時期となり、大きな転換期に入っている。また、新幹線函館総合車両基地の雇用などにより、転入超過と恵まれた状況にあるものの、人口は減少している。しかし、新幹線開業効果を最大限に生かして取り組んで行きたいとの挨拶がありました。
　大沼会は出席者全員が大沼中学の卒業生で和気あいあいの同窓会の模様で、初参加が2名いましたがすっかり溶け込んで楽しんでいました。懇親会の最後は大沼中学の校歌で締め括り、次回の参加を各自確認しつつ散会と成りました。

同窓会の活動状況

◆関東青雲同窓会
（函館東高校同窓会）
5月23日（土）
グランドアーク半蔵門
参加者　125人

◆東京東川会第14回同窓会
6月13日（土）
ライオン銀座7丁目店
ライオンクラッシックホール
参加者　55人

◆東京函商同窓会総会・懇親会
6月27日（土）
第一ホテル領国・清澄の間
参加者　123人

◇函館工業高等学校同窓会
10月17日（土）13時
日暮里・ホテルラングウッド

◇幸小・常盤小・船見中
合同同窓会
10月24日（土）13時
浜松町
銀座アスターベルシーヌ竹芝

◇第39回白楊ケ丘同窓会
東京支部親睦大会
（函館中部高校同窓会）
11月14日（土）12時
グランドアーク半蔵門

◇遺愛女子高校
東京支部クリスマス会
12月4日（金）10時30分
アイビーホール青学会館

27年新年総会・懇親会

2月7日（土）午後0時30分より、東京・荒川区東日暮里のホテルラングウッド・飛翔の間で、27年度の北海道道南会新年総会が、午後1時より懇親会が来賓と会員合わせて110人が参加して行われました。

総会は、島田瑞子副会長の司会で始められ、総会議事に先だち、薬袋　泰会長が「今年は、昭和35年（1960年）の創立以来55周年を迎えた。役員一同一丸となって55周年の記念事業などを遂行したい」とあいさつしました。そして、薬袋会長を議長に選出して、議事に移り、26年度の業務報告と27年度の業務計画を三村寿雄副会長が、26年度会計報告を続　薫常任幹事が、監査報告を、新山春一会計監査がそれぞれ報告し、いずれも原案通り承認されました。また、薬袋議長より、「今年は役員の改選期にあたるが、創立55周年記念事業の遂行のために現行体制のまま望みたい。役員は全員留任としたい。なお、昨年死去された福津達男顧問の後任として、沢株正始氏と南谷光一氏に顧問に就任していただきたい」と提案して承認され、南谷氏が顧問就任承諾の挨拶をされました。

この後、11人の新入会員のお名前と出身小学校が紹介され会場の皆さんより大きな拍手を受けて歓迎され、総会が終了しました。

懇親会では、最初に薬袋会長が「今年は道南会創立55周年。記念事業としてふるさと訪問旅行と、会報・道南の55周年記念号はページ数を増やして発行したい。皆さんのご寄稿をお願いしたい」と挨拶しました。

次いで、来賓の布谷朗函館市観光部長、堀口正顯北海道ふるさと会連合会副会長、小林正孝関西函館をおもう会長、浦本元人北海道東京事務所長、手島孝雄サッポロビール部長、石井直己同副部長、矢木澤和夫ＡＩＲＤＯ主査を紹介しました。

来賓を代表して布谷部長が「来年3月の北海道新幹線の新函館北斗駅までの開業へ向けて、昨年12月に新幹線車両の試験走行が始まった。東海道新幹線の開業から50年を経てようやく北海道まで届いた。新幹線の開業により、観光面はもちろん、経済面でも大きな効果が期待できる。ことに、胆振、日高地区の苫小牧、室蘭、登別、洞爺、日高などから函館との広域連携との要望がある。新幹線の開業に向けて駅前の和光ビルを撤去して新たに16階建ての建物・キラリス函館を建築中。1階から4階に商業施設と市の施設が入り、5階以上はマンションとなる。また、五稜郭電停前の旧グルメシティも同様に建てかえを行っている。さらに、駅前通りのアーケードの撤去、電線の地中化を実施している。

なお、市民会館に代わる函館アリーナを建設中。アリーナは体育施設に限らず、5,000人規模のコンベンションが行える。柿落としは7月下旬予定だが、オープニングの7月25日、26日の2日間に函館出身のグループ・グレイのコンサートが行われる予定。

外国人の観光客数を国は、2020年に2000万人を目標としている。函館はこれを30万人としたいと考えている。海外からの観光客が増えるように道南会の皆さんには口コミや宣伝等を通じてご協力いただきたい」と、函館の

近況などを紹介しました。

この後、関西函館をおもう会の小林会長が、「関西では、前身の函館の会から数えると52年。現在の名称では34年になる。高齢化が目立ち会員が減少してきたが、会員を当初函館の高校の同窓会を中心としていたが、これを道南地区の出身者や函館を訪問したことのある人、道南に興味のある人などに範囲を広げたことで、会員数は増えつつある。総会への参加を楽しみにしている方は多く、今後も会を継続したい」と述べて、本日参加の皆さんの健康を祈念して乾杯の発声を行い、懇親会がスタートした。

安保咲子さん

会場内には、函館の夜景や春の五稜郭奉行所、冬の大沼・駒ヶ岳、八雲町の観光ポスターが貼られて、会の雰囲気を盛り上げていたほか、各所では新年の挨拶など懐かしい函館弁の会話が飛び交っていました。

今年のアトラクションは、現役の芸者さんの安保咲子さんが、踊り「あらめでたいな」を優雅に舞い、大きな拍手を浴びていました、1972年に「赤色エレジー」でデビューした歌手のあがた森魚さんが昨年発表したアルバム「浦島64」から「夢が叶えられる街では」を歌い上げた後、名曲「赤色エレジー」を披露しました。さらに歌手の池田さなえさんは持ち歌「函館ステップ」を軽快に歌い上げて盛んな拍手を受けていました。

あがた森魚さん

恒例のお楽しみ抽選会では、有志の皆さんから寄贈された函館カレーやトラピストバター、ビール、ワイン、陶器セット、マンモグラフィー・脳ドックの受診券などが用意されて、当選する度に歓声が上がるなど各テーブルでは大いに盛り上がっていました。

抽選会の後、函館の応援歌〝青春時代〟の替え歌〝函館時代〟を全員で合唱して盛り上がりました。さらに、道南会の応援団長の高橋順吉さんが川瀬俊吉さんと一緒に道南会へのエールを送りました。

そして、午後3時過ぎに、続常任幹事が音頭を取って三本締めを行って閉会しました。

なお、参加の皆さんへは、函館と大沼の資料と一緒に函館塩ラーメンがお土産として配布されました。

抽選会で当選

抽選会で当選

北海道道南会へエール

平成27・28年度 北海道道南会役員

◆会　長　薬袋　泰

◆名誉会長　室谷　邦雄

◆副会長　島田　瑞子
　三村　寿雄
　新山　春一

◆会計監査　菅原　大作・川守田礼子

◆常任幹事　山田　克明・須藤　珠実
　続　薫

◆幹　事　古井　勝春・比嘉　裕子
　泉　龍夫・川瀬　俊吉
　高橋　厚子・富岡　信夫
　檜森　兄元・福地　史人
　小林　嘉則・小山　敦子

◆顧　問　篠崎　昭彦・松田　昇
　二上　達也・能味　寿哉
　中村　隆俊・丹野　康男
　新谷　義克・郷内　繁
　朝倉　敏夫
　沢株　正始（新任）
　南谷　光一（新任）

◆相談役　田沼　修二・川守田孝平
　沼崎　貞良

新入会員紹介

◆石津尚也（函館市立本通小）
三村寿雄副会長の紹介

◆柏崎真由子
（函館市立日吉ケ丘小）
ホームページを見て。

◆小林智恵子
（函館市立千代ケ岱小）
島田瑞子副会長の紹介

◆加藤隼平（森町立森小）
富岡信夫幹事の紹介

◆末永昌子（函館市立柏野小）
島田瑞子副会長の紹介

◆中村久美子
（函館市立谷地頭小）
島田瑞子副会長の紹介

◆花巻省三
（大野町・現北斗市立市渡小）
川守田孝平相談役の紹介

◆藤田恭吾（七飯町立大沼小）
島田瑞子副会長の紹介

◆松本龍二（函館市立東川小）
ホームページを見て。

◆山手　章（白老町立白老小）
三村寿雄副会長の紹介

◆渡部純子（鹿部町立鹿部小）
沖山雅子さんの紹介

平成27年度 懇親会出席者

【来賓】

※函館市観光部長　布谷　朗
※北海道ふるさと会連合会
副会長　堀口正顯
※関西函館をおもう会長
小林正孝
※北海道東京事務所長
浦本元人
※サッポロビール専任部長
手島孝雄
※サッポロビール副部長
石井直己
※（株）ＡＩＲＤＯ営業部主査
八木澤和夫

【参加者】

朝倉敏夫、あがた森魚、安保咲子、石津尚也、池田さなえ、石戸六男、泉　龍夫、井上千春、井上善子、今井　清、今井雅子、小山　光、沖山雅子、笠川雅彦、柏崎真由子、加藤隼平、金子公彦、金子忠雄、川瀬俊吉、川守田孝平、川守田礼子、菊池紀邦、久慈佐津子、工藤弘子、工藤正昭、窪田恭子、郷内　繁、小島幸子、小林智恵子、小山和彦、小山敦子、酒井哲美、坂本保子、佐々木豊子、汐谷　進、柴田孝、島田瑞子、嶋村悦子、新谷義克、神　れい子、末永昌子、菅原大作、鈴木栄子、鈴木一弘、須藤珠実、砂山和義、千住照平、高橋厚子、高橋順吉、高木清子、谷口定己、田辺鶴暎、田沼修二、千歳芳光、続　薫、敦澤義彦、照井陽子、富岡信夫、鳥本玲子、中川和彦、中島利夫、中村久美子、中村　崇、長島　康、納代鉄也、楢木久澄、成田きよえ、成田慶子、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、野口晴雄、花巻省三、比嘉裕子、檜森兄元、藤田恭吾、藤山秀樹、古井勝春、本間和吉、本間作喜、松井文夫、松浦和彌、松田州平、松田　昇、松村　茂、松本龍二、三國比左男、水島敏夫、薬袋　泰、南谷光一、三村寿雄、向山慶宗則、森本貞子、八鍬　武、八鍬優子、山田トミ子、山木和子、山手　章、横井　透、吉野俊郎、若林岑生、渡部純子、渡部良

平成 26 年度収支報告書（自平成 26 年 1 月 1 日至 26 年 12 月 31 日）北海道道南会

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越高	233,656	行事費	2,026,384
年会費	568,500	通信費	140,492
行事　会費	2,158,200	印刷費	292,380
寄付金	31,000	消耗　品費	18,135
広告協賛金	56,000	交通費	174,444
雑収入	62,450	会議費	26,179
受取　利息	83	会費	10,000
前受金	69,000	交際費	173,127
		支払手数料	22,029
		前受金	36,000
		次期繰越高	259,719
合計	3,178,889	合計	3,178,889

次期繰越金内訳	
現　金	￥56,373
普通預金	￥164,866
振替口座	￥38,480
合　計	￥259,719

監査報告書

平成２６年度決算報告書について、帳簿及び証憑書類を監査した結果、適正かつ妥当に処理されていることを認めます。

平成27年1月27日

北海道道南会
会計監査　新山春一

道南会行事報告

☆元大相撲力士による唄と相撲甚句を楽しむ忘年会

12月6日（土）午後3時より、JR中央・総武線両国駅前の「花の舞国技館前店（東京・墨田区横網）」で、会員とご家族、ご友人など43人が参加して行われました。

会では、島田瑞子副会長の司会で、最初に薬袋　泰会長が「今年も残り少なくなりました。年内最後の行事として本日の忘年会を行うことになりました。短い時間ですが、皆さん大いに楽しんでいただきたい」と挨拶。乾杯して宴を開始しました。前菜のサラダとお刺身、ちゃんこ鍋、タラバガニとズワイガニの盛り合わせなどの和食のコース料理とビールや日本酒、焼酎などの飲み物を楽しみながら、皆さんで歓談しました。

3時40分過ぎ、アトラクションとして、相撲教習所講師で、全日本相撲甚句協会師範の国錦耕次郎氏が、軽妙な話術の司会で隅田川相撲甚句会の加藤副会長ら4人で相撲甚句を披露し、盛大な拍手を受けていました。また、相撲甚句へのご祝儀は割り箸にお札を挟んで帯に刺すようにしていましたが、皆さんは楽しんでご祝儀を弾んでいました。

アトラクションの後、しばらく歓談を続けましたが、皆さん大いに盛り上がっていました。そして、新人として初めて参加された4人（一人は再入会）をそれぞれ紹介しました。

午後5時30分過ぎに、函館から参加された佐々木俊克さんが中締めを行い、三村寿雄副会長が閉会の挨拶をして、午後6時過ぎにお開きになりました。

なお、大相撲カレンダーと観光リーフレット「浪漫函館」と「大沼」、函館の情報を満載したPR紙「HAKODATE」が配られました。

☆「27年新年総会・懇親会」（別掲）

2月7日（土）
午後1時開会
江東区東日暮里
ホテルラングウッド

☆舎人公園でお花見

4月3日（金）、昨年に引き続き、足立区の舎人公園で、17人が参加して行われました。

午前11時に、日暮里・舎人ライナーの「舎人公園駅」改札口に集合。満開から散り始めた桜並木の通路を歩いて10分程の園内の「ゆうひの丘」まで行きました。ゆうひの丘の売店で食事をするつもりでしたが、この日は大変風が強く、しかも売店は高台にあって強風の吹きさらしになるために、風を避けてしかも皆が座れる場所を探して移動しました。

ライナー車両の車庫の上にある通気搭の陰に、桜を見ることはできませんでしたが、大きなブルーシートを敷いて、車座になって皆さんが持ち寄ったお料理やおつまみなどをお互いに分け合いながら、ビールやお酒、焼酎、ウィスキーなどを飲み交わしました。

この日は、高橋厚子さんのお誕生日ということで、ハッピーバースデーを皆で合唱して乾杯し、祝福しました。

話題の中心は、5月24日から3日間、函館訪問から八雲町近くの仙境の湯として北海道で人気ナンバーワンの上ノ湯温泉の「銀婚湯」まで行く、「北海道道南会創立55周年記念ふるさと訪問旅行」のことや、来年3月に「新函館北斗駅」まで開業が予定されている北海道新幹線で、来年は改めて新幹線でのふるさと訪問旅行を企画することなどで盛り上がっていました。

午後1時50分過ぎに、宴会を打ち上げ、桜の木をバックに集合写真を撮影しました。その後、舎人公園駅から日暮里駅まで行き、日暮里駅近くの焼き鳥店で二次会を行って、お互いに話し足りないことなどで盛り上がっていました。

☆北海道道南会創立55周年記念ふるさと訪問旅行（別掲）

5月24日（日）～26日（火）
東京・羽田から函館。八雲町・銀婚湯、大沼公園などを経て、函館市役所を表敬訪問。

編集後記

◎5月24日から3日間の日程の北海道道南会創立55周年記念ふるさと訪問旅行では、八雲町まで行きました。八雲町は旧尾張藩の家臣団が集団入植したこと、北海道の木彫り熊の発祥の地、広大な育成牧場で沢山の牛が飼育されていること、1500㍍の滑走路を備えた自衛隊基地があること、などを初めて知りました。それぞれの土地を実際に訪れることでいろいろな知識を得ることができたのは大変貴重な経験でした。

◎平成23年8月の50周年記念誌では、会員プロフィールを掲載しましたが、今号では、創立55周年記念の特別編集として、平成23年後期以降にご入会いただいた方々に、それぞれ自己紹介をご執筆いただきました。顔写真も掲載しておりますので、これからは新しいお仲間として共に北海道道南会を盛り上げていただきたいと思っております。

会報「道南」
27年・夏号・通巻62号
発　行　平成27年8月1日
発行所　北海道道南会事務局
茨城県取手市西
1-6-C-907
薬袋　気付
印刷所　富士製版印刷㈱
世田谷区下馬4-17-17